宮崎市きよたけ歴史館だより
平成２８年２月（第 134 号）

しのぶ草

（発行　偶数月）
発　行：宮崎市教育委員会文化財課
宮崎市きよたけ歴史館
発行責任者　川口眞弘
所在地：宮崎市清武町加納甲３３７８－１
TEL 0985-84-0234　FAX 0985-84-2634
E-mail　kiyorekisi-u@city.miyazaki.miyazaki.jp

今年も「お佐代さんを偲ぶ会」開かれる！

お佐代さんは文豪、森鴎外の小説「安井夫人」で広く世に知られています。安井夫人は戦前の教科書に何度も登場しました。

後に安井息軒の奥さんとなる川添佐代は、文化９年（1812）、飫肥藩清武郷岡に生まれました。佐代には４歳年上の豊という姉がいました。27 歳で江戸の昌平坂学問所での学問を終えて意気揚々と引き上げてきた息軒先生に、父滄洲はそろそろお嫁さんをと考えました。息軒先生は幼少の頃天然痘にかかり、何とか一命はとりとめましたが、顔には痘痕（あばた）が色濃く残り、右目は潰れて見えないほどで、決して色男ではありませんでした。

お佐代さんを偲ぶ会の一コマ

滄洲は、嫁として親戚筋の川添姉妹の姉、豊はどうかと考え、仲人を立てて話を持ちかけました。しかし、豊は「いくら何でも…」ときっぱり断りました。仲人はがっかりして帰途につきました。すると川添家の使いが追いかけてきたので引き返すと、何と当時まだ 16 歳であった佐代が、「仲平さんがもらってくださるのなら、私が嫁に行きたい。」と言うのです。

お佐代さんは「岡の小町」と噂されるほどの美人で、この噂はまたたく間に清武郷を駆け巡りました。お佐代さんは息軒先生の見た目ではなく、本質的な人間性、才能のきらめきを見抜き、自らの意思で息軒先生に嫁いだのです。

それからお佐代さんは、息軒の妻として、安井家の嫁として、四女二男の母として、そして清武では「明教堂」を、飫肥では「振徳堂」を、江戸では「三計塾」を切り盛りして生涯息軒先生を支え続け、1862 年１月３日、51 歳で亡くなりました。息軒先生が徳川将軍家茂に謁見し、昌平坂学問所の教授になったのは、その年の暮れのことでした。

こうしたお佐代さんの功績を称えるために清武町では各婦人団体が資金を出資し、本館北側に供養塔とモニュメントが造られ、命日に近いこの時期に例年偲ぶ会が計画されており、今年も１月９日に開催されました。偉人だけでなく、その夫人を偲ぶ会を催すというのは、他にあまり例を見ない素晴らしい取り組みです。

SOKKEN スタジアムには夫婦（めおと）の看板が!!

お佐代さんについて広く知らせるために、バッファローズのキャンプ地「SOKKEN スタジアム」に、このほど顕彰会の企画、ロータリークラブのご支援で、昨年の息軒先生の看板に続いてお佐代さんの看板が完成しました。二人は江戸に移住してから一度も清武に帰ることはできませんでしたが、これで夫婦（めおと）が揃って里帰りを果たしました。

（文責：川口）

古代の清武②

清武川下流域の丘陵上には奈良時代から平安時代の遺跡がたくさんあるのですが、その中でも宮崎県内では４箇所しか見つかっていない「須恵器（すえき）」を焼いた希少な窯跡が見つかっています。今回はその松ヶ迫（まつがさこ）窯跡について紹介します。

松ヶ迫窯跡は宮崎市大字本郷南方字松ヶ迫にある通称「岩切池」の岸に造られた窯跡で、昭和 39 年に発見されて昭和 41 年に２基の窯跡が調査されました。調査された２基の窯跡の構造は池の岸の斜面を利用した半地下式の「窖窯（あながま）」と呼ばれるものでした。調査当時にはこれらの窯跡以外にも少なくとも１基の窯跡があったことや岩切池の中に土器が多く埋まっていることが確認されています。しかし現在は宅地造成等の開発行為によって池の一部が埋め立てられてしまったため、未調査の窯跡の正確な位置などは、残念ながらわからなくなってしまいました。

２基の窯跡から出土した須恵器から、少なくとも８世紀中頃から９世紀にかけて操業が行われていたことがわかっています。このことから松ヶ迫窯跡は宮崎県（日向国）で現在発見されている窯跡の中でも最も古いものであり、日向国における奈良時代から平安時代にかけての須恵器生産を考える上で大変重要な遺跡だと考えられています。

松ヶ迫窯跡から西に 2km ほど離れた同一丘陵上にある須田木遺跡や清武川を挟んだ対岸にある下田畑遺跡では平安時代の竪穴住居や掘立柱建物跡などが見つかっており、さらに窯壁の付着した須恵器や歪んでいる須恵器が出土したことから松ヶ迫窯跡での須恵器の生産に何らかの形で携わった人々の集落と考えられています。

（文責：秋成）

昭和 41 年の松ヶ迫窯跡１号窯の調査状況
（窯跡の床部分の写真で須恵器が出土している）

きよたけ歴史館企画展　「碑（いしぶみ）は語る」

本館は昨年度、郷土史家伊豆道明氏から拓本の寄贈を受けました。１月 30 日から、３月 13 日まで標記企画展を開催します。貴重な拓本がご来館をお待ちしています。９時～16 時半まで、毎週月曜日並びに祝日の翌日は休館日です。